

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	りんく小祿教室		
○保護者評価実施期間	2026年3月12日		～ 2026年3月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2026年3月12日		～ 2026年3月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	高い専門性と個別支援の質	保護者評価は全項目において高評価となっており、子どもの特性理解・個別支援計画に基づいた支援が適切に行われている。	空間活用の工夫 室内での運動や活動の幅を広げるため、空間の使い方をさらに工夫していく。
2	環境整備と支援体制の充実	構造化された環境や清潔な空間、適切な人員配置により、安心して過ごせる環境が整っている。	環境面の細かな改善 トイレ環境など細かな部分の快適性向上に取り組む。
3	職員間の連携と組織的運営	ミーティング・1on1・日々の共有などを通して、PDCAサイクルが機能し、組織的な支援が実施されている	地域交流の強化 地域との関わりや交流機会をさらに増やし、社会性の育成につなげる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援計画の共有のばらつき 計画の共有や実践において一部職員間で認識の差が見られる。	支援レベルが高い分、職員間での理解の深さに差が出やすい	支援計画共有の徹底 全職員が計画を理解し実践できるよう、共有と振り返りを強化する。
2	個別と集団のバランス 個別支援と集団活動の組み合わせについて、さらなる工夫の余地がある。	日々の支援が安定していることで、振り返りの深化が弱くなる	活動設計のブラッシュアップ 個別と集団の目的を明確にし、より効果的な支援へとつなげる。
3	保護者支援のさらなる強化 面談や家族支援の機会について、継続的な充実が求められる。	保護者支援がイベント中心になりやすい	保護者支援の体系化 面談や情報提供の機会を整理し、継続的な支援として強化する。